実 施 記 録

機関名　南魚沼市図書館

企画名	がんを知る講演会		
開催日程	令和８年６月13日	参加人数	56人
参加者の声	・題目のとおり「がんを知る」よい講演会でした。 ・とても分かりやすい講演でした。 ・医師のチームでがんに立ち向かうという言葉に勇気づけられました。 ・がんになっても自分らしく生きていく気持ちになれました。 ・貴重な機会をありがとうございました。普段聞けないようなお話を聞くことができました。 ・講演会は大変良かった。心無い言葉は元気な者（当事者以外の健康な人）にとっては判断が難しい。がん当事者であった家族に心無い言葉を言ってしまっていた気がする。 ・親や親族ががんであり、市報を見て参加した。貴重な話が聞けてよかった。 **【参加者の様子など】** ・医師の講話では、治療においては生物学的存在としての情報も大事だが、患者の人生や考え方、仕事など社会的存在としての情報が重要という内容の場面で深くうなずく参加者が多かった。 ・がんサバイバーの実体験に驚く反応、「がん患者への対応は手探りでいい」という言葉に対して深くうなずく参加者が多く見られた。 ・ウイッグ展示・体験では、抗がん剤治療が始まりウイッグが必要になる方が来られ、購入先などの情報をお伝えした。担当理容師さんとも情報共有ができた。		
メディアで取り上げられた件数	３件	掲載内容 （記事・URL）	6/5　雪国新聞344号 6/11　新潟日報 6/14　読売新聞

- 実施のきっかけ、機関同士が「つながる」きっかけ

  地域がん診療連携拠点病院として登録している国立がん研究センターのメーリングリストにがん情報ギフト「結ぶ」事業の企画公募の案内があり、魚沼基幹病院腫瘍センターから南魚沼市

図書館にお声がけいただき、当該企画に応募することになりました。南魚沼市図書館では、がん情報ギフト「結ぶ」事業に併せて開館 12 周年記念事業として講演会等のイベント開催の企画を立て、がんを知る講演会として開催することになりました。
ウイッグ展示・体験の業者の皆さまには、基幹病院から協力をお願いいただきました。
また、講師のサバイバーの方からのご提案で、レモネードスタンドを六日町ライオンズクラブの皆さまが開催してくださいました。
市健康推進課には、医療用補整具購入費用助成の担当部署として、図書館から協力をお願いしました。

- 実施にあたり、大変だった（苦労した）点

・普段、繋がりのない組織であることから、事業の趣旨の共有認識に少し時間を要しました。
・イベントにご協力いただいた医療用ウイッグの業者の皆様との調整・準備に少し時間を要しました。
・６月の開催に合わせて年度初めでの準備となり、各機関の実施内容を調整し、計画ができるまでに時間を要しました。
・内容の詳細が決まっていない中での事前告知のお願いに苦労しました。
・当日の客足によるウイッグ展示・体験、レモネードスタンドへの集客の難しさがありました。

- 実施して良かった！と思えた点、今後こんなことがしてみたい！と思う点

・講演会では、会場がいっぱいになるほどの方々が聴講に来ていただき、講師の話に耳を傾け、頷いている方も多く、とても有意義な時間を提供できました。
・この事業でがん情報ギフト寄贈館となり、常設での「がんを知るコーナー」を設けることで、信頼できる情報を市民の皆さんに届けられるようになりました。
・がんサバイバーの実体験から、当事者に対する声かけや気持などを知ることができました。
・がん相談支援センターやがん患者医療用補整具購入費助成事業について知ってもらうことができました。
・抗がん剤の副作用として起きる抜け毛に関するアピアランスケアとして、医療用ウイッグの展示・体験ブース設置を図書館からお願いし、基幹病院から調整いただき、業者の皆様のご協力があり実現できました。

・髪が抜けることに対する不安、初めてのウィッグ（価格、品質についてなど）に対する不安等々。ウイッグ試着体験を通じて色々と知っていただくことができ、患者さんの不安を多少は減らすことが出来たのではないかと感じます。
・「がんを知る」という一つのテーマからそれぞれの立場で、参画いただくことができた。
・今後は、図書館以外の公共施設でも講演会等の開催ができると良いと思っています。

● 実施に向けて機関同士で大事にしてきた点

・この地域で安心してがんの治療や支援が受けられることなどを知っていただく。
・信頼できるがん情報の提供や小児、AYA 世代のがんについても関心を持っていただく。
・来場者が入りやすい環境づくりが大切だという共通認識。
・全体での打合せができないため、事前準備、スケジュール等の計画の共有。
・病院は、当事業の趣旨である「市民へのがん情報普及」を地域がん診療連携拠点病院の使命と捉え、イベント開催に全面的に協力して準備を進める。

● 機関同士での共同企画を行ってみたいと思っている機関へのメッセージ

・病院内ではない環境で地域の皆さんへ情報提供できる機会を作ることは、とても有意義なことであると考え、国立がん研究センターの企画公募に応募しました。普段、連携のない機関同士で共同企画を成功させるにはお互い協力が必要となります。共同企画の実現に向けて打合せを重ねて行くうちに、新たな企画も生まれて来ると思います。このようなことが継続して行くうちに異種連携が持つ新たな可能性が見つかるのではないかと思っています。
・がんに罹患した場合の備えとしての情報は、普段の生活では受け取る機会は少ないと思います。有識者らがそれらを発信し続けることは、もしもの場合の備えとして非常に大切なことと思いますのでこれからも「実は身近な情報である」と発信し続けて欲しいと思います。